

西女
件日
館長
志

明治三十七年八月以降



特別
14
1919
925



留
1327
158

14
199
925

明治十七年九月以降



要件日誌

九月

- 文向の... 歴代誌彙集... 十篇
- 外務省の... 文向の... 十篇
- 徳寺... 文向の... 十篇
- 堅三... 文向の... 十篇
- 小林... 文向の... 十篇
- 全三... 文向の... 十篇

010/9004830/

一 鈴木を急ぐ事跡及(月迄の)

一 石塚を急ぐ事跡(月迄の)

一 杉山全克氏と...

剛然と云ふ...

一 来る十日...

一 石井と左...

一 来る十日...

開館迄一切の教記録ヲ査す
 蒔田鈴木の友人ヲ助午トシ
 名ニカードを騰言セシム
 一 自今圖書ノ受渡シ取流ルルモノ
 必メ書ヲ存申シ給仕三人と定キ
 専ラ検索ニ従事セシムルモノ
 一 本邦ノ書ニ鈴木君ニ圖書目録
 訂正本ニ據リ取寄リ閱覧ニ付
 必キ目録ノ考辨ヲ行ハス
 一 今更ニ

一 分科法抽出シ一切の林野ニ引
 続ケル
 一 伊東ニ依リ件ヲ命ず
 開館迄一切の圖書存貯ノ年
 続ケルモノキキ
 改正分類表を作り揚示ス
 一 新学教記録、記録ヲ開館迄
 一 一ツツの件ニ付命ず
 一 既成英科月書教部(英書)ニ
 一 記録ニ付命ず

一 拂下いのみ目録印済中より一出版印
へ引渡す件し書下代價を返す旨
ありき

一 カロエの法字を論じ日記出版印
引渡す此旨を新巻外函より返
せりとのうを答へて身下口知れ也
一 高名改列しつて関し読果他
へきやもあつた南名改列致意
高名者)役人中村用為に洋酒
とておを贈る

九月五日

一 東京市内各利に法字の音宛し
件冬移し四ヶ所しめたる家
は移し降つた何れも承知あり
一 東京港豊く去る入の扉の錠
を記入す又カード送付函の
乙と提出分不便に付更へて
を改め又を提出するき分余
一 関税官入の着所より左に
係りし請来あり

一指子夜

一下駄うけ

(一) 本中本板

閉防の如き月

三階を和雨漏修繕しし本板有廿
を括り大之を嘆く也

一本の初しし元批り川田家圖書書
等運心しし総函敷る二十三也

一 凡そ是く治又し和り多此程有し書
然者考り別を運し更しし物程條約

一 鑑局し書存鑑を治又し押拒
業の象以洋書とて戸治又し

其意(正)コメ價凡し由と書あり

出来しゆ也

一 桑原方ししカード道口折付函
見下をより書ありし修訂しし
とて之個治又し

一 大坂に於ける和書局修訂し
此地の中井新ししし部と書
す

一 其の如き修訂しし三田圖書
し完全を如きし書ありし

鳴り続出をあるる也

一 電燈台社職工より電燈線のツケ
場をみるやと天井の上へ伏せし
しものを天井裏(人目の届くまで)出
しと元つけ始めたり。こゝを甲電燈
の老線と云傳へる所は有りと有
きと出したる結果也

九月二日

日 七

石あり終るの六世と云前日に川橋と
川田圖書の完全を有し ち又初と
ニ徳体を點呼しし 架しぬめりる

九月八日

本々しし 閣後：供するき 圓分を
撰しえを別架しぬめりる
閣後：供するき 川田圖書 教二此の
順するたぬめりる
一 是のつるし 本々 順し一 架

上り批判するべき事一但し架を一身
兼務のつき言葉の心も次の元
つへき

一既に定めある文章を案を角と貼
付する事

一此の要するに川田氏より托する」と云く
全体を通し書籍名に「読後」付
する圖書の通し書籍を二括
記する

一読後文章を依る事も但し文章

の書き出し等者も出版年月を
入る事

一右伊東操氏の「読後」を著
する書は千巻に

一「目録を括弧に付しカードと調和
する事」カードを本校で定

めたる合款符號を附する

事一例は「歴史の巻」に

川伊と記し「川」の字を
史の部に属することを示す

一 本のカードの分類は、
●と此の図に於て互に
カードと書換るるもの
寄託当宗系に標記あり
換るる図に於て
一 総目録二部 一 腰
一 部教冊数 一 部
一 図録に於て 一 部
一 油香 一 又の上
冊数

●と此の図に於て互に

一 カードと書換るるもの

一 寄託当宗系に標記あり

換るる図に於て

一 総目録二部 一 腰

一 部教冊数 一 部

一 図録に於て 一 部

一 油香 一 又の上

冊数

一 川田家圖書寄託と冬

社にあり

○

一 エレバウの此の

二つが号紙に於て

いふべきは、

も及る紙海に

ありて、

号紙を

一 中なる

スラリヤ吉松教部着衣

九月三日 園遊会の一階を劃し
芝居園遊会と云ふ。あはれ心は
池邊園遊会と云ふ。いふところ
石川心の中もあはれ心と云ふ
提出するをき揚ふす。いふ
と云ふ。す。

一 不意の急大隠居する者係(不意急
接急と云ふ) 振急を出来
付本の園遊会二階に納す

九月九日

一 川田家と云ふ。遊楽を紀於四ノ一
一切急の急と云ふ

一 川田家と云ふ。遊楽を紀於四ノ一
急と云ふ

一 川田家と云ふ。遊楽を紀於四ノ一
別架と云ふ。園遊会と云ふ。いふ
いふ。急を此り。且つ急
急。急と云ふ。

九月十日

一 休校中 伊東 担任の 和洋書カードの
分類と括す

一 上野圖書館の 歴史の圖書を
代換し 油心紙 結果を左

歴史 二冊 三冊 一冊 一冊

政治 一 一 三冊 一冊

法律 三 二 二冊 一冊

文学 一 一 一冊 一冊

経済 九 一 二冊 一冊

合計 二二 四五 二二〇 二二八

社会学 一 一 一冊 一冊

教育 一 二 一冊 一冊

統計 一 一 一冊 一冊

言語 一 一 一冊 一冊

交通 一 一 一冊 一冊

地誌 一 一 一冊 一冊

合計 二二 四五 二二〇 二二八

右代換の事 伊東 担任の 和洋書
カードの原書也

一 右代換の事 伊東 担任の 和洋書
カードの原書也

説、供する事とらるす

一川田氏圖書し由読覧、供する事、今之
教正理を引續き、元掛り、そのる未
結了り、あはれ

九月十一日 日曜

一事務不付付棚一個購入
一彼名札の事、出給表干し、和洋書
を購入す

一彼名手え、之商名寄給、勅語文部

二手続書、之を案を八

一来、二十日、以、才、三、回、日、給、保、証、令、を、子
く、り、出、渡、者、を、寺、の、由、に、夜、付、音、書、の
知、事、氏、と、孫、を、し、り、を、事、判、し、し、文、部
に、し、り、を、事、判、し、し、文、部

九月十日

一新聞紙、閱覧、不、を、閱、覧、家、右、方、と
定め、机、を、つ、り、て、又、書、画、し、入、を、英、一
本、の、事、を、し、り、を、事、判、し、し、文、部

- 一 川田圖書の「子供」を受け付る件 在館本2
掲載せしむるを以て其の原稿を心
リテ在るをコミニヤソウ附し各紙
破命しす
- 一 校友三木武志夫人の「言」を以て
編みしす
- 一 高田ニ附する「読心カード」(茶福名)注
又し内なるものを取出す
- 一 書多油査用紙ヲ定むル者故即
刷し免也

一 書多油査用紙を如く

九月十三日

- 一 町内「川」清き「川」後見「書」を如
くす
- 一 川田圖書の「子供」を受け付る件
見取帳を以て「子供」を以て
三木武志の「子供」を以て
如く
- 一 甚く「子供」を以て「子供」を
如く

布、本、多、多、の、使、り、の、式、集、一、切、外、に、輸
出、樟、腦、の、函、尺、を、一、個、列、せ、さ、す

一 杉、木、余、四、七、の、辨、表、後、さ、す

一 高、平、奇、形、勅、語、物、系、に、謝、状、を、行
せ、す

等、

一 杉、皮、固、者、自、身、採、枝、つ、寄、の、向、又、終、に、

販、賣、七、し、さ、す、一、つ、ま、に、文、海、

油、も、の、和、洋、共、二、十、印、つ、お、成、

不、伴、し、手、数、料、を、一、つ、ま、に、在、償、に、一、割、

を、与、え、ら、る、ゆ、也

一 此、は、條、又、な、る、迄、仕、不、成、一、身、上、の、お、免、

こ、も、も、條、を、解、く

一 又、梨、子、の、間、し、七、カ、ー、ド、函、の、連、続、を

送、す

一 外、交、の、報、後、未、交、換、用、し、七、五、分、部

つ、の、寄、給、と、受、け、あ、り、し、七、五、分、部

更、に、五、印、に、増、加、を、お、成、し、七、五、分、部

せ、し、但、し、九、月、お、り、し、

六月十号

一 有馬秋成氏も領地及び書牘を辨別して
行々々の存を以て互に渉合する迄又す

一 長田村史の著者も彼等と

一 川の改修に傳へたるものも山田市印
と云ふものも採用及び

杉山金左氏も「枡井のり」として

一 八月迄のり三本の身上片付え
と云ふものも採用及び

一 三田園方より「古言下之部」とある

類と昔の字に似て「托」も「托」上
江原村」と合符し「合符」上細目
を伴ふ

一 同書に「由」史料」の語に史料の
通して細目報を以て

一 彼等が史料を以て「他」

一 一割し平教料と

也

代領改体 四十九 其

シテスン

三十七部

二十九

リッヂー

ミル
代紙紙体

六十二部

十九

- 一 印刷用紙の元高を定めたカピテン、毛紙を
通海十三部、一邦代紙、二田の十
五部、三毛紙、四毛紙、五毛紙、
六毛紙、七毛紙、八毛紙、九毛紙、
十毛紙、十一毛紙、十二毛紙、十三毛紙、
十四毛紙、十五毛紙、十六毛紙、十七毛紙、
十八毛紙、十九毛紙、二十毛紙、二十一毛紙、
二十二毛紙、二十三毛紙、二十四毛紙、
二十五毛紙、二十六毛紙、二十七毛紙、
二十八毛紙、二十九毛紙、三十毛紙、
三十一毛紙、三十二毛紙、三十三毛紙、
三十四毛紙、三十五毛紙、三十六毛紙、
三十七毛紙、三十八毛紙、三十九毛紙、
四十毛紙、四十一毛紙、四十二毛紙、
四十三毛紙、四十四毛紙、四十五毛紙、
四十六毛紙、四十七毛紙、四十八毛紙、
四十九毛紙、五十毛紙、五十一毛紙、
五十二毛紙、五十三毛紙、五十四毛紙、
五十五毛紙、五十六毛紙、五十七毛紙、
五十八毛紙、五十九毛紙、六十毛紙、
六十一毛紙、六十二毛紙、六十三毛紙、
六十四毛紙、六十五毛紙、六十六毛紙、
六十七毛紙、六十八毛紙、六十九毛紙、
七十毛紙、七十一毛紙、七十二毛紙、
七十三毛紙、七十四毛紙、七十五毛紙、
七十六毛紙、七十七毛紙、七十八毛紙、
七十九毛紙、八十毛紙、八十一毛紙、
八十二毛紙、八十三毛紙、八十四毛紙、
八十五毛紙、八十六毛紙、八十七毛紙、
八十八毛紙、八十九毛紙、九十毛紙、
九十一毛紙、九十二毛紙、九十三毛紙、
九十四毛紙、九十五毛紙、九十六毛紙、
九十七毛紙、九十八毛紙、九十九毛紙、
一百毛紙、

総代紙は、川田の紙也

- 一 川田の紙は、総代紙と称する、今カードに
てて出来、ちり、松平、高橋、と在、
其、
一 事、目録、カード、整理、結果、を、
説、
一 説、

九月十日

- 一 ちり、
一 カード、
一 目録、
一 整理、
一 結果、
一 説、

と述べた

一 川内家古書と目録三本と膠着と
余り

一 塩江打~~~~信田書数冊(中二冊は)
焼入~~~~と述べた

一 八月中国古書如表左と~~~~
宗鑑 印 冊

一〇八 一九四

辨取 二一 二六七

合計 一二九 二六一

一 漢書と~~~~と~~~~
利を述べた

一 方須按~~~~と~~~~
事蹟一二の材料と述べた

一 松平可来~~~~と~~~~
~~~~と~~~~と~~~~  
~~~~と~~~~と~~~~

九月十日

一 小室也~~~~と~~~~
~~~~と~~~~



今更に宿学を出生し成るに由り  
此の如くは其の支るべきに由り  
の従て今更に其の如くは其の如く  
知すべし也

一 其の如くは其の如くは其の如く  
其の如くは其の如くは其の如く  
其の如くは其の如くは其の如く

一 川田の如くは其の如くは其の如く  
其の如くは其の如くは其の如く  
其の如くは其の如くは其の如く

一 元来は其の如くは其の如くは其の如く  
其の如くは其の如くは其の如く  
其の如くは其の如くは其の如く

一 其の如くは其の如くは其の如く  
其の如くは其の如くは其の如く  
其の如くは其の如くは其の如く

一 其の如くは其の如くは其の如く  
其の如くは其の如くは其の如く  
其の如くは其の如くは其の如く



九月十七日 奉命

一 寺に持回るる物死すに紀念するもの  
 其國寺より持回るる物分友人福  
 比福二(高野一)を以てし出西  
 石に付く口より寺より之を  
 ぬく之を扱渡尾上可二二六親又  
 持回るる物謝状を以てする物也  
 一 大書院判決本關多し油一上寺  
 此方治書院、四行し一石一石  
 後、余す

一 中井新らりし中井右之寺之借を借

更し

一 三友寺 言曲及智海

一 寺中傳 南水邊(在)院二海

一 寺の寺八島

一 川内國心之内古言の史料 寺  
 石を以て持回るる物分友人福  
 比福二(高野一)を以てし出西  
 石に付く口より寺より之を  
 ぬく之を扱渡尾上可二二六親又  
 持回るる物謝状を以てする物也  
 一 大書院判決本關多し油一上寺  
 此方治書院、四行し一石一石  
 後、余す

九月十日

口



九月十九日

- 一 又部宛之及出(四)とめ事被ありと
- 一 柳井の力(七)む事被(八)垣(九)の上(十)買(十一)入(十二)硝子(十三)ロ(十四)ン(十五)の(十六)持(十七)お(十八)と(十九)之(二十)あり(二十一)る(二十二)持(二十三)て(二十四)い(二十五)し(二十六)大(二十七)小(二十八)元(二十九)交(三十)て(三十一)買(三十二)入(三十三)と(三十四)清(三十五)す
- 一 子(一)部(二)宛(三)指(四)成(五)し(六)る(七)持(八)被(九)長(十)年(十一)元(十二)二(十三)三(十四)送(十五)行(十六)り(十七)す
- 一 上(一)の(二)團(三)書(四)終(五)り(六)し(七)購(八)入(九)し(十)回(十一)方(十二)代(十三)官(十四)存(十五)す(十六)と(十七)交(十八)渉(十九)す
- 一 古(一)持(二)信(三)留(四)り(五)お(六)と(七)心(八)を(九)し(十)て(十一)い(十二)ら(十三)る(十四)三(十五)木(十六)と(十七)換(十八)り(十九)す

あとも

- 一 郡(一)司(二)大(三)附(四)露(五)中(六)の(七)持(八)え(九)る(十)孔(十一)し(十二)説(十三)す(十四)と(十五)名(十六)に(十七)つ(十八)き(十九)夜(二十)付(二十一)也(二十二)お(二十三)り(二十四)用(二十五)話(二十六)話(二十七)今(二十八)も(二十九)身(三十)心(三十一)を(三十二)説(三十三)し(三十四)た(三十五)る(三十六)も(三十七)或(三十八)は(三十九)交(四十)交(四十一)も(四十二)し(四十三)も(四十四)同(四十五)じ(四十六)に(四十七)き(四十八)ら(四十九)る(五十)も(五十一)あ(五十二)ら(五十三)る(五十四)也(五十五)と(五十六)念(五十七)を(五十八)推(五十九)し(六十)し(六十一)つ(六十二)つ(六十三)と(六十四)換(六十五)米(六十六)物(六十七)と(六十八)共(六十九)に(七十)す
- 一 中(一)お(二)り(三)し(四)し(五)も(六)い(七)ら(八)る(九)も(十)い(十一)ら(十二)る(十三)も(十四)い(十五)ら(十六)る(十七)も(十八)い(十九)ら(二十)る(二十一)も(二十二)い(二十三)ら(二十四)る(二十五)も(二十六)い(二十七)ら(二十八)る(二十九)も(三十)い(三十一)ら(三十二)る(三十三)も(三十四)い(三十五)ら(三十六)る(三十七)も(三十八)い(三十九)ら(四十)る(四十一)も(四十二)い(四十三)ら(四十四)る(四十五)も(四十六)い(四十七)ら(四十八)る(四十九)も(五十)い(五十一)ら(五十二)る(五十三)も(五十四)い(五十五)ら(五十六)る(五十七)も(五十八)い(五十九)ら(六十)る(六十一)も(六十二)い(六十三)ら(六十四)る(六十五)も(六十六)い(六十七)ら(六十八)る(六十九)も(七十)い(七十一)ら(七十二)る(七十三)も(七十四)い(七十五)ら(七十六)る(七十七)も(七十八)い(七十九)ら(八十)る(八十一)も(八十二)い(八十三)ら(八十四)る(八十五)も(八十六)い(八十七)ら(八十八)る(八十九)も(九十)い(九十一)ら(九十二)る(九十三)も(九十四)い(九十五)ら(九十六)る(九十七)も(九十八)い(九十九)ら(一百)る



九月廿日

此の踏長家ある病人をいふ

八月廿日

一 有馬秋成氏に用ひし御用の御用書數十部  
一 藤原氏に用ひし御用書十部  
一 川田氏に用ひし御用書一冊

左に如し

| 部名  | 部数  | 冊数   |
|-----|-----|------|
| 印門  |     |      |
| 任部  | 四五  | 七七五  |
| 史部  | 五九  | 一〇八二 |
| 子部  | 二九  | 四七一  |
| 集部  | 一六六 | 一〇〇三 |
| 古字部 | 二七六 | 〇一八一 |



総合計 一六二九 部 九四五〇 冊  
 管内 総合計と重複するものを除き、関  
 連したものを分 館の分類：……  
 するものあり

|     |     |      |
|-----|-----|------|
| 政治  | 1   | 2    |
| 経済学 | 33  | 429  |
| 宗教  | 4   | 29   |
| 地誌  | 33  | 99   |
| 史学  | 205 | 1291 |
| 部   | 部   | 冊    |

|      |     |      |
|------|-----|------|
| 国文学  | 3   | 14   |
| 社会学  | 33  | 119  |
| 教育   | 2   | 3    |
| 小説戯曲 | 1   | 6    |
| 支那文学 | 4   | 76   |
| 言語学  | 22  | 67   |
| 文学目録 | 22  | 67   |
| 美術工芸 | 18  | 89   |
| 随筆叢書 | 22  | 132  |
| 六    | 1   | 6    |
| 合計   | 376 | 2994 |



○滿韓心回考考用とと知事之関絶家  
聖之張り付くくくく衣衣衣の掛くく  
く出る白之行く法も

八月廿三。

一 彼中和洋書購入し為松山を以て  
店更代し古店に出生云々一と圖  
書と購入す

八月廿四

一 彼中上野田寺跡に田中一福氏と  
清の  
一 池之端琳瑯をくく表干し之和作  
古癖本  
一 桑多きくくは又しカード函状に互表  
三箇お本あり又くくち徳信者録之  
甚心先り出来の言のりく振えり意し  
くく)を治入す  
一 自今外交の類を治入す



後をいへばへい 徳意の 送後せしむる  
吉 ところ

一 才三雨日好海 送會来十月二日(曜)  
開會を言ふありき 札を托て来る  
覆件 幸をゆめ 札を托て来る

一 子をと持因善助 祝死に自遺族  
其の志 吉二十十六部八十六月を  
言う宛し ます

一 山田市一郎に 川田家同告目録

し 傍方を念いず

八月廿五日

日曜

八月廿五日

一 校及客下り 札を托て来る  
一 寺田車 札を托て来る  
一 吉岡石 札を托て来る



一 寺々々々書庫に錠前元付をてし

一 琳瑯各々をてしを購入し因書物十冊お約束了代筆十二の既来月抄

一 加藤目録編百巻を授任し初素を行ひしは今月来月筆五の因に午まゆを照りあさるゝ之也

一 新々潤語をてし戦地之因を揚什院説書の巻々々々傳也

一 省市部を月後六四九十九下を傳入ししこと併し之をてし

一 横井の冬札表紙をてし高名をてし集し目的人地名油をてし高名をてし横井をてし

一 西本寺をてし左し因書に既書

入トトシ 萬國古今記



外 獨乙辞書

八月廿五日

- 一 高田の二三ヶ所と大アトを去却す
- 一 浮文の中ハ誤案ニ入るル出来
- 一 録中ノ修繕を要するものあり
- 一 録中ノ重分抄本を以て出せしむ
- 一 干しし圖書を辨入
- 一 本り古本を鑑元付編

八月廿六日

- 一 村上專務、吉を去す、林映平、録中、而から
- 一 杉山金吉、矢野、録川、田、寄、托、園、を、観、す
- 一 本、校、給、仕、と、多、中、多、う、う、校、を、毎、日、七、時、し、し、の、と、概、々、を、辨、始、す、付、本、録、し、給、仕、三、名、出、る、外、七、一、七、の、決、す
- 一 本校出版の圖書を閲覧系網



棚之上等之佛公之書を、按て取らるるを  
本らるるに之を行

八月廿九日

一 考部酒查用を五つ取中  
出来

一 予故に上中回之端珠取  
法圖書と稱し由十二部之能  
吉と稱す

一 此の行被化に、福氏書集

一 考部酒查用を五つ取中

八月廿九日

一 考部酒查用を五つ取中  
と云ふ也

一 久保内侍の書も、按て取らるるを  
考部酒查用と稱す

一 日好海元と来月之開合と稱す  
考部酒查用と稱す



のうに清し其方のまゝ中井し  
ゆゑ也

一 時々の修繕にともなふ集書  
贈るべきは好くも半松田某書  
せりしに清ししもの右冊出  
版印ししに

一 小川一吉ついで大隈修印  
池の考志不版外書  
不版同修して  
定書其校之を  
洋来上級の

希に記す  
定日校に  
後、拘り  
説き  
流々



十月

三日

一 幸國寺を参りて寺内西園に遊んで閑合せり  
英未佛獨々移りて旅宿元次寺に  
閑し書り回巻を得たり

五回

一 飯中珠珀閣に出立し佛土参り  
旅者数千人参りて膳ふ此後四  
十日五十七日也

一 日向橋流石に伴ふ自飯中より  
を流ふ事九日宿付得ぬ  
弋出候し〜の如流す次  
本向程末を扱〜の  
日人〜の流を〜

一 杉山三郎氏に朝解し閑  
たり外文文書如冊を借り  
〜の〜の〜の〜の〜の  
者〜の〜の〜の〜の〜の  
也の〜の〜の〜の〜の



と云ふ積也

一日の仕立給へし件に關し坪の中井  
あつと書状を出さす本向代及杉  
山合右書状に御用書出出  
致書琳瑯各と出給圓いと給す

二

一 関の奉納に燈台物と交付す  
一 桑原より御入し大徳住より家  
をい出来

一本年より購入し施給(外圓の印)給ふ  
波々出来、右と扱集るに御宛書るに  
十五日也、而りみ給るに、直接外圓  
へ入流し給ふ也  
一 中井右より一書給へし仕立  
合しと書合てと給す

三

一 本向代書琳瑯各と給し、浅倉より  
着書し、圓書と給ふ



國文和品集(下)

大平 御訪人 昭和五十四年

前所(露)等

一 右(過)休(と)定(止)

十四日 為上(慈)校(存)三(付)

十七日 日

十七日 日 唯 休(の)休(業)

十七日 大(祭)等

廿日 本(校)紀(念)日

一 大(院)紀(念)日(既)刊(分)騰(寄)了(了)

又(と)細(目)カ(ー)ド(を)心(の)き(者)三(木)

二(令)等

一 外(國)旅(行)自(今)互(接)地(球)の(境)を(入)り

事(に)言(わ)れ(る)換(金)券(を)取(出)し

傳(票)を(取)ら(せ)

取(り)か(え)る(に)事(有)り(旅)行

着(干)き(衣)類(の)取(手)年

之(際)に(取)扱(せ)る(に)事(有)り

年(一)月(一)日(今)補(完)了(了)



九

一日唯

一 本らより何れも本三四海法名を本及  
五孫子とありて二氏法法と  
は別當なり

一 鈎漁之関する文字 寺田處傳

一 芝居名号ありて又遷幸名も得知  
勘合の付内多き事 兼て彼中三人  
の氏とありては二氏との略とおぼし  
と

一 幸田也との後名法海記に二乃印

高麗しとあり

十

一 寺田處傳に海法とあり

一 松平重宗の御書に法海とありて  
は松平重宗の御書にあり

一 廿日以高瀬久多とありて  
寺田入の御書にありて  
原の御書にあり



一 予秋大あしあきまの雨海

十一日 晴

一 川の家をたし用書信由のり  
供文致を也

向川急物行 一

思の家致を給 二

校へる家玉坊お係 四

本朝年中行事略 一

貸抄中一表 一

備補具孫の伝料 二

日本外志 二

ン

一 毎の曜公衆の関後を多許すこと  
その學と根定に在る方大要考しめ  
定ふ

一 十一月亦一日曜を如くす

一 州候しのりまをあ九のり

多良のりすす



一 未だある男女との年一と云ふ  
事

一 炭油の付油を云ふ

キ級三級 一月元干し刻

引ラカス一 体毛を云ふ

ちびりし分に似てす

一 廿〇〇に法に云ふに指を云ふ

いかに法に云ふに指を云ふ

~~~~~

一 切符を云ふに云ふ

一 ありゆきを云ふと湯を云ふ(四角)云ふ

~~~~~

一 下~~地~~に云ふ一 日名を履し云ふ

高坑油の上を干しに云ふ

一 松平原(地)を云ふと名若大佐(四字)

の字の終を云ふ こんと云ふ(四字)

あしらの素の云ふと得を云ふ

の刻字の由此の四字を云ふ

~~~~~ 額を云ふと 関修念


と揚々都々也

● 平島と坂根の上 圖書部高嶺久

今も来ん廿四丁 月曜と月曜の

開名と決す

一 左と右氏を商嶺久と高嶺久

寺

田名子宗

山田三良

~~井井井井~~

河津道

石川文子

塔の森他

池田隆一

青柳馬垣

・ 長谷忠一

・ 藤山次一

・ 衣川年幸

・ 内々崎作市

・ 水井一孝

一 カアト合敷の経典を二冊くへき 標設

とカカードを十枚花紙り作る

右試みと作らる

一 南無名実録と題する作

作る

十月十日

彼もろくろのあつとを彼らに

一彼も海へ去るを産出地國又も荒

干と購ふ

一あ即為雅氏おれをいし故の事なり

外人の海へ去るは左に國者購

買入る事いかにしをばり

Comes of Japan

便十の事いかにしをばり

巧の事いかに

一彼も海へ去るを産出地國又も荒

干と購ふ

一あ即為雅氏おれをいし故の事なり

外人の海へ去るは左に國者購

買入る事いかにしをばり

十の事いかにしをばり

十月十日

一山岩の事いかにしをばり

を産出地國又も荒

しん中々をてきんをてしん

一 公衆演説の関する或れ等國
國を説くことあることある

一 丸を長くとりあつた外國國者古国
新者しんふ十一部力利率年外二日
店者りし新者三部

一 時十會しんて會する者一終休世事しん
一 海兵しんてはの陣兵しんてはあつた
一 中井新しんてはしんては話話多草
記しんては年終

一 モニロウ其 ころンス、ラフ、ジャパン 購

の代金拂

十月十日

一 公衆演説券(一程と一四番位二
程と演説券多)を以てして
油金を毛振る

一 四番 五十枚 五馬
一 四番 二五枚 十馬

早稲田大學圖書印

一 抄お：八、路る、ま、二、る、抄
一 公衆周覽り、産を先し、八、礼、掲
書

り、日、抄、四、四、
五、五、二、六、

共、考、以、一、回、末、月、三、日、一、回、
掲、載、

一 号、後、し、原、形、出、果、産、後、四、回、

十月廿二日

一 大、隈、居、こ、と、お、集、之、見、こ、と、一、回、一、云、と
一 任、事、を、こ、と、お、集、之、見、こ、と、一、回、一、云、と
一 其、所、也、こ、と、お、集、之、見、こ、と、一、回、一、云、と
一 一、回、一、云、と、お、集、之、見、こ、と、一、回、一、云、と
一 一、回、一、云、と、お、集、之、見、こ、と、一、回、一、云、と
一 幸、由、其、行、氏、こ、と、お、集、之、見、こ、と、一、回、一、云、と

冊計寄附する諸書物、謝状してある
之ら前、若干、し切手を掲る旧紙と
沈り

一 田川田家(終史終年地海居誌料
五冊借用) (山市) (中おる也)

一 重々(日支録) (其自展の圖書
之中) (印) (九種) (之) (寄附) (し) (て) (す)

一 公衆閲覧を許す(其要) (其後) (偽
為) (授) (与) (亦) (者) (也)

一 寄附(其) (事) (録) (事) (目) (録) (其) (任) (之) (任) (之)

編輯(の) (改) (改) (史) (を) (開) (始) (す) (る) (に) (つ) (い) (て)
今(も) (免) (つ) (べ) (き) (意) (を) (云) (ふ) (に) (つ) (い) (て) (其) (事) (を) (行) (は) (す) (と) (す) (る) (に) (つ) (い) (て)
高(子) (兄) (を) (家) (を) (免) (す) (る) (に) (つ) (い) (て) (其) (事) (を) (行) (は) (す) (と) (す) (る) (に) (つ) (い) (て)

一 公衆閲覧(に) (関) (する) (諸) (書) (物) (の) (支) (出) (金)
二十(四) (日) (に) (終) (了) (す) (る) (に) (つ) (い) (て) (其) (の) (事) (を) (行) (は) (す) (と) (す) (る) (に) (つ) (い) (て)
を(得) (る) (と) (す) (る) (に) (つ) (い) (て)

一 公衆閲覧(に) (関) (する) (諸) (書) (物) (の) (支) (出) (金)
社(に) (て) (は) (指) (定) (金) (を) (使) (用) (す) (る) (に) (つ) (い) (て)

一 早稲田(大) (学) (九) (月) (分) (元) (油) (の) (結) (果) (を) (示) (す) (に) (つ) (い) (て)

和漢書之部 印 冊

齊紀書 七一 一七〇

隋入書 三三四 二七〇

ノ 二九五 八四〇

一 臨城の倉敷を移す移すの耐す由重平
本故ありし物況を記し之を以て
は故人校反也

十月二十三日

日曜

一 三十七年分の試集表を添へて然るに
朱の巻末を以て其意を添加ありしが
此の如く志を心とす

一 関涉する支物断れり即ち強弱し
又其を徴し之を凡十二回也其在公
衆閱覽に属する移す所の支物として
一 関後書入の上下を指すも在六
二 其外に有りし之を前の如く移す所
也

一 拙集の巻末に於て其支物保蔵の
也

すゝき兄と故よりいふこと申す

十月二十四日

一 法行の心衆聞後、如くしり出で
廣くをあるべきを思ふこと
しりしり、廣くを思ふこと
法しり

一 石山寺、草丈とて、美ふ不揮と
奇然あり

一 石山寺、草丈とて、美ふ不揮と
奇然あり

本段、高城、久分とて、あり

一 岩市、中、おろし、因、市、内、東、寺、の
多、情、外、寺、母、友、田、丸、と、折、し、り、情、を
か、し、り

一 高城、久分、と、出、る、名、三、十、四、人、の
湖、波、の、お、ろ、し、り、と、折、し、り、情、を
か、し、り

十月二十日

一 波、中、湖、波、の、お、ろ、し、り、と、折、し、り、情、を
か、し、り

圖書と檢下

十月廿六日

一方、昔種、字體、初稿、し、り、唐、務

ハ、ハ、ハ、

お、お、お、

お、お、お、

中央、お、お、お、

お、お、お、

お、お、お、

唐、お、お、

統計、お、お、

お、お、お、

(英文) お、お、

大、お、お、

大、お、お、

石、お、お、

お、お、お、

お、お、

陸、お、お、

中央、お、お、

士、お、お、

獨、お、お、

子習院

- 一 坂本三平が東京市に法律書目録を出版し、送付し、更に講義の書目録の元油を依頼す
- 一 現在大方を花江見録一冊執筆中、既、講求との関係あり
- 一 外交の報告として、毎日新聞の寄附を受け、自今、立印の講求として決り
- 一 立印の報告として、各々、成漢義録

年ぶりの甄おとめをいふ

- 一 陸軍大佐の國吉幸次郎に從つて、作山流一巻、録書として書物を發行す

- 一 三木隆吉の死後、四日あり出来し一元のつき、其上と引続き、左に細目を調査す

奥平雅也著書
大平——御説
石段

私不足の書物あり

史 節

石川田岡書

十月廿五日

一 三半路より大急行のヨード出ました
カード函・三個・満つ

一 近呈 送覧 左ノ個少くても一
諸君より社 寄附を言けり社

号枚 録

友 諸文庫

雑 誌 社 ぬのん挽を要す

書 店 帝ニ交渉あるか

石川訪見書とわたり個人の名を記し
個人におし典あるを

在交自原を心へき

一 杉山金吉氏よりしす 送覧書あり 快寄
物あり

十月廿九日 日三十一日 至

彼書 左宛の随伴して甲あり

旅あり

二九二

一 公衆の閲覧の指図版を授けしに
属、譲り入り

一 公衆の書引に便する為閲覧室
に分類細注を必し掲示するべき事
石印を以て命ず

一 村上幸祐氏も終結花江に
二 自跋書と記したる

一 日清海防の要行傳の
杉山金吉也くち宛を以て

三〇

元長一 休跋

四〇

一 中井行一の伝記名の本三冊
記を以てす

一 方波のあそびの間に七巻を以て
五十巻(也)に應行の伝を印刷し
の辨本を以てす 必讀本を二冊
刊記のす

一 ありあけの紙を打て、印をて取す

一 本もあつて紙を提出し、圖書現存表(九月三十

日) 表を、いんすあは

二四二四八 冊 五四三二四 冊

由

資料部 四六九二部 四八五二冊

参考書 一九六五五冊 四九四八三冊

一 名書大化し、の印紙出来、関後を、掲
く

五の

一 三木茂吉の役名簿お記の細目を必しこ
とを合す

一 二 習字の母の習字集外支出概算并満

るに、あるもの記とあるを、あつて

え、あつてのあつてとあつてのあつて

あつてとあつて

一 有用カードを拾取を、あつてあつてある

五十一 坪の山手うえ出来あつてあつてあつて

口、合款又出ししと細書、各カード

一 函に書き置しむるを容易くしむる
 一 下飯周係く冬寺名(丸石軒)并に
 所を新く(主筆名)園遊名方をと
 二 宛別書を致す
 一 古川橋畔に少く將也と記す
 一 中流の字を記す
 一 一う橋通にの都後入事飯表子
 の園遊を記す

二七

四曜

本のしりあひの淵波公眾に園遊
 を得たり事飯名九名
 一 四曜のしりあひの淵波公眾に園遊
 高し宛別を記す

七

一 杉山を友也しむるを記す
 一 一葉未のしりあひの淵波公眾に園遊
 ありし

早稲田大學圖書館

一 日清戰役列記... 支那通商

一 中英五國通商... 支那通商

一 大政商書... 支那通商

支那通商

支那通商... 支那通商

六〇

一 大政商書... 支那通商

支那通商... 支那通商

支那通商... 支那通商

一 支那通商... 支那通商

支那通商

一 支那通商... 支那通商

支那通商

一 支那通商... 支那通商

支那通商

黄玉の糸の目録を心こころに
 一 君命の御事と信じて懐く言の所す
 へき言の御事：閑し風雨一丸いづれに
 懐し方かたに紙かみしきり言を以て
 心の供を出す也

十百

一 君命の御事と信じて懐く言の所す
 (言の御事) 借事
 一 抄集言の御事と信じて懐く言の所す

一 君命の御事と信じて懐く言の所す

一 大坂唐の御事と信じて懐く言の所す
 冊別言の御事と信じて懐く言の所す

一 御事と信じて懐く言の所す
 干しに圓書を挿入す

十二

一 皇國の御事と信じて懐く言の所す
 昔々御事

一 高平勅諭し傳へし御代
御代 笑村 早川 申手 (板反) 未
未 吉 あり

一 本寺の古帳 (古文書) 勝手出来
りしもの記しあり

一 十月中 新元 同昔 (本寺) 部
統計 左し

寄宛 100部 100部

購入 100部 100部

合計 200部 200部

一 手記 札集 ありしもの記し

十二部 〇部

十部 〇部

一 彼長 風部 ありしもの記し

十二部

一 校友 生白 ありしもの記し
数 十部 ありしもの記し
一 金部 手記 ありしもの記し

一 高名寄附秘譜之書式(二色)と
字の印刷を托す

一 高名寄附秘譜の書式(二色)と
字の印刷を托す

一 高名寄附秘譜の書式(二色)と
字の印刷を托す

一 高名寄附秘譜の書式(二色)と
字の印刷を托す

一 高名寄附秘譜の書式(二色)と
字の印刷を托す

版摺出書

一 洋書一冊 読覧室と此の部方書
と書簡送付して備出

一 洋書一冊 読覧室と此の部方書
と書簡送付して備出

一 大故北渡船の巻下清内く書簡書状
と書簡送付して備出

一 大故北渡船の巻下清内く書簡書状
と書簡送付して備出

一 大故北渡船の巻下清内く書簡書状
と書簡送付して備出

十七の

一 元在居の上をこの命の中し何打し流る
 し何れも其底を去るありし細い
 へ此處より流る日鳥をえり
 一 岩の上の肉ここの由をえり
 流
 一 琳瑯石とて乾仰山義集(唐
 云ニ方冊)挿入代演四丁也
 彼書より流る挿入

十八

一 國古挿入(美名原書)し何れも在
 外の日をえり流るし七へ彼書
 一 一 帝國の字を同し彼ここの古に拂
 抄しここの挿入
 冊二十冊を挿入
 政嫌入
 一 早稲田の字を流るし彼書より挿入
 送附了

一在外地を遊んで出て来た者(一) 高野
の念(一) 加勢の如く着る(一) 仕と云ふ
事なし

一高野(一) 高野(一) 高野(一) 高野(一) 高野(一)
高野(一) 高野(一) 高野(一) 高野(一) 高野(一)
高野(一) 高野(一) 高野(一) 高野(一) 高野(一)
高野(一) 高野(一) 高野(一) 高野(一) 高野(一)

十九

一此秋海をこぎり(一) 高野(一) 高野(一) 高野(一)
米高野(一) 高野(一) 高野(一) 高野(一) 高野(一)

一伊予(一) 高野(一) 高野(一) 高野(一) 高野(一)

一伊予(一) 高野(一) 高野(一) 高野(一) 高野(一)

一伊予(一) 高野(一) 高野(一) 高野(一) 高野(一)

一伊予(一) 高野(一) 高野(一) 高野(一) 高野(一)

一伊予(一) 高野(一) 高野(一) 高野(一) 高野(一)

一伊予(一) 高野(一) 高野(一) 高野(一) 高野(一)

次田：再ハ出海の由也

一 大隈氏帯田と三池に不戻高宗を

寄始し三井務山多秋く一込

信も多秋も端

一 和公衆事被十七人

二十百

一 物集るらる也、淑然ととも

一 海にこころ早川中よあむ

一 商あるも波のき入田集と郵

とす

一 手車平國ちるる用國者推自を

後りるもきかして精入る代後十

四の既使をもはくの扱くる物老

す

一 甲あ市川青海海之に在あ之海を

作しと車昔あらし

一 プリンストン大ニ勝印もくと聖路の

うけたる扱反合し字をふを宛る来

る

一 横井のりをが事被堺市のあるふ流

総乱記(字)を傳入し自ら書しを托す
一月末終る并授る并を決定す
一書りし書と左し傳を伝授す

一印刷目録 本館所蔵の書
一を本館に送附し充てん
おせしるしを心より 改刊し各
十不修葺するも 心を合し
別々流るるを心より
一流記を自ら了圓を然るに耳

く従しありをすむる体段し切符
と書しを之を配り以て人々の
お暇を三つ

一本の行末切し謝状を呈す
一河津寺外へ送文を交するに就し
儀より山内へ書状を呈す

二十一日

一高名し保し井好武生の孫
三四村名をりて免れ然るを

す

一 帝國の歴史 一七五冊
入る歴史 一七五冊
陽の歴史 一七五冊
陽の歴史 一七五冊

現代の工字學

三七冊

政治

一一

法律

四二

文學

二九

歴史

一五

言語

二六

言語

二

社會學

二

心理學

四

経済學

四

地理學

二

計 一七五冊

二十音

大學 休波

二十号

一 揚井の老則と経を二つが高田堂の撰
 一 堀市一 賢方七又才 糸乱
 一 池二 总刻 附由 姑者一册 信多又
 一 勝言方一冊

一 韓四 注のりニ持 齊然ト之也

大車 宛かん

清時 宛かん

朝鮮 宛かん

一 ウエレバツク 法多り也 論十冊 宛かん

ボ多撰、通印ヲ一冊 宛かん
 一 冊 宛かんトを 加くニ云す

一 川内 考也、齊 宛かん 宛かん
 一 宛かん 宛かん

一 本 宛かん

一 本 田 考也、他 宛かん 宛かん
 一 宛かん 宛かん

一 中 宛かん

一 宛かん 宛かん
 一 宛かん 宛かん

一 宛かん 宛かん

一 宛かん 宛かん
 一 宛かん 宛かん

一 宛かん 宛かん

勝と接あり

一 以何名終るといふことを知るべきなり
 一 三國遺事一に出る所を詳求しむる事
 一 下流流弊の事を知る事
 一 一何れも其年流を可しむる
 一 何れも其金花七変化の如く事必
 一 雷や物終一何れも原板くさるる事
 一 奇蹟を以てする事
 一 傍にありて之を以てする事
 一 一何れも其事必初終して其氏

〜と流弊あり

一 三十七と云ふは終極の事なり
 一 表裏の事
 一 三和の事
 一 也内終極の事なり

井考

一 高平の事
 一 山高の事

井上

一 幸の多し... 車多美術... 街の... 松島外二人出... 白木... 二回... 五... 名と...

市島海... 中... 大... 早稲田...

印... 毒...

幸... 西...

孫...

大、田...

文...

長...

林...

一日...

公...

一 本林令計を任と堀池の正左し件を決定す

一 本林令計を任と堀池の正左し件を決定す

一 本林令計を任と堀池の正左し件を決定す

一 本林令計を任と堀池の正左し件を決定す

一 本林令計を任と堀池の正左し件を決定す

一 本林令計を任と堀池の正左し件を決定す

一 本林令計を任と堀池の正左し件を決定す

一 本林令計を任と堀池の正左し件を決定す

一 毎月一回を記しと令計部を記す

一 國に出納の四をみるまきし

一 在正月百と定施す

一 決り事：記す後物：廿二三ノ件を

令計方へ余す

廿八

一 國に出納の件等の決ををのし

一 國に出納の件等の決ををのし

一 國に出納の件等の決ををのし

一 國に出納の件等の決ををのし

計方、四行、八へ、今、針、方、と、云、ふ、こ、ろ、に、記
帳、を、あ、ら、う、と、初、簿、考、即、ち、帳、を、之、初、記
し、簿、入、り、の、目、書、を、之、に、添、へ、て、其、の、分、を、記
し、之、を、之、の、目、書、に、あ、ら、う、と、云、ふ、こ、ろ、に、記
帳、考、の、目、書、に、上、の、目、書、を、添、へ、て、之、を、以、て、
之、を、之、の、目、書、に、あ、ら、う、と、云、ふ、こ、ろ、に、記

一 右の法、算、り、関、し、本、及、と、照、合、を
為、す、試、算、表、大、作、の、帳、を、物、々、に、記
帳、考、の、目、書、に、上、の、目、書、を、添、へ、て、之、を、以、て、
之、を、之、の、目、書、に、あ、ら、う、と、云、ふ、こ、ろ、に、記
帳、考、の、目、書、に、上、の、目、書、を、添、へ、て、之、を、以、て、
之、を、之、の、目、書、に、あ、ら、う、と、云、ふ、こ、ろ、に、記

〇

本名

一 帳、本、に、於、て、珠、算、考、に、出、出、圓、書、と
稱、す

一 右、の、帳、本、に、珠、算、考、と、云、ふ、こ、ろ、に、記

三十日

一 帳、本、に、於、て、珠、算、考、に、出、出、圓、書、と
稱、す、
又、二十、日、也

十二月

二日

一 雨後園後を看す。水：「寂」の字ありと
 刻す。里印を付ひつゝ、園後
 流の供の流し多きと云ふ。此の
 里印と接するところあり。七
 七降のりさるる也。
 一 早山細王の古枕新耳
 一 下坂の岩下流の因も、ちんちんあり像

池田おを(を)おし 且つおれと(を)おし
 不考の流ありと云ふ。此の字ありあり
 印もくニこの也。名を伝はるる
 一 ちんちんあり、二三の園ありと云ふ
 了
 一 杉の中と、湖と云ふ。此に地誌三部
 辨入
 一 松平氏寄託書と云ふ。此に合印と
 却と決す

一 予の積り揚成りたるきあ集りたる
るを於て開し一山幸の先推也
等物をもあす

一 十二月分積り并一扱り并千七百
円七拾一匁計一都一提出す

一 十一月分閲覧月表左し
開帳の數 二十分

人々總計 二一〇三九

一〇平均 七五二、三九二

圖書總數 三八三二〇冊

一〇平均 一三七〇冊

一 十一月分和洋書新加左し
寄貯 二九三部 三七八冊

洋本 六四 四九八

合計 三五七 八七六

分り

一 高名し保り月三の程池也元
本古き也

一 新帳 二十四箇 在まが二階
之圖書 新刊用也 伊東氏
之書也

一 廣田抄 七 海花殿新抄
之書也

一 在久山温氏 活字古見録
之書也

一 洋書目録 活字古見録
之書也

分ら月申 是んを 活字也
下 活字 是んを 活字也
其地年傳 是んを 活字也
と紙活字也

九の

一 活字 活字 活字
之書也

一 大改茶むと商店式家の整理之
 任を托す衣らうきこらる事故を
 更らふあらうや 再未あゆ
 折念をわう新也
 一 幸圓る科を古米万そ次改
 然し仲し自改ちこし方修
 するもく之を心古認の之を
 振と文行
 一 換漢字の中をもく生息を
 貯し修らるる市為直文の書状

をる出す

一 漢海を商早元をし修らるる
 印し書状を
 一 高成り支更に準内りて改
 修る事午し 測志を底修る下
 一 辨入とあふふ又その書し内るを要
 する書目のは油を修らるる修
 する

十の

一 新築のちいばねをすて、あまのあまの
 一 中流のちいばねをすて、あまのあまの
 一 木に余す、あまのあまのあまのあまの
 一 侍と名をすて、あまのあまのあまの
 一 大坂のあまのあまのあまのあまのあまの
 一 了ん、あまのあまのあまのあまのあまの

十の

口

公衆未読 二十二名
 大坂のあまのあまのあまのあまのあまの
 一 了ん、あまのあまのあまのあまのあまの

十の

一 世のちいばねをすて、あまのあまのあまの
 一 新築のちいばねをすて、あまのあまのあまの
 一 高田のあまのあまのあまのあまのあまの
 一 池をすて、あまのあまのあまのあまのあまの

名ふや一む

十三 雨

一 会亭二階わ葎者し節函快く心と為
 用し終る亭花田ちあり傳説(田)者
 一 桐口を区畫し指すあ御作しのれ
 を附し、糸綿と考へるゝと云ふ
 只しすいさ初年す
 一 坊内やしし出ししもの方凡そ二年内
 花ししもの丸るをを既ん外(田)の流るゝ決

一 かおし其の年流とめとししむ

十考り

一 考り初め指しを彼記ししを考りし
 一 考り初め指しを彼記ししを考りし
 一 中井おらるりし流流合あり地を抄具
 一 二竹林訂をもとつるもの流流あり
 一 流名考り集し傳し流し流を考り
 一 氏に考り考り考り
 一 日上一傳し考り考り考り

張と命りす

一 号外七巻の綴り久し年未半高類
を指定す

一 高岩茂集しお念の因し紙を
綴り

十二

一 ちの林堅三携へて出た

一 高子し借し書し一冊中綴り式
未行あり

一 安藤田原中海の... 左に... 綴
綴りあり

1. Petit Parisien Daily news

2. Scientific American

一 以下 Scientific American

④... 綴りあり

綴りあり

一 高岩田原の... 綴りあり

二十〇一—二十三

一 兼登三高早免集あしる再正後派
 くらき甲るあたる嘉兵衛あお二好
 免〜 幸免をさすけとゆふ
 一 大町の方角 高早免集あしるさ
 地推さるしむこあふを統し〜
 不向さるる紙不向し中向さるる
 こ一書と校し〜さ集方と統し
 乙書に校しゆゆ〜高早免集の元也

二十六

一 新年開帳を以て日し公衆の閲覧
 を仕可す〜ゆき〜ゆきと紙とと紙
 の上決をす〜と左の如し

一 二階し石置集に公衆の閲覧を
 設〜
 一 大町高早免集あしる再正後派
 設〜

一 二階を再
 設〜
 一 大町高早免集あしる再正後派
 設〜

志定之友と定てしるす
一 日曜日の正午開校し舊の後
す

一 十回巻と表紙をすし(千通)
三刻引即ち二十一紙と
以て是をす

一 一月甲申吾し各新巻の口
あり記すを各巻すし揚巻
し

一 市内、指来校年向古坊し

別に其校絶心す

一 研究字と陽陰子と文の必要
ありし自ら校と文海を家
き

一 書業の各校と、園絶切の月を
与る後す

心校と文海し上決念す
す

一 町本園書あり記をそいむの
掃一降し上一回休書あり

一 小舞に括りて序中しある洋書
新らねし書部完全しと
漸く一五をたきげ久しく
七し書部の錯綜も一應
決まらる

一 池を純をぐし高るを入に
小舞に括りて序中しある洋書
漸く一五をたきげ久しく
七し書部の錯綜も一應
決まらる

一 池を純をぐし高るを入に

一 池を純をぐし高るを入に

一 池を純をぐし高るを入に

一 池を純をぐし高るを入に

皇和日大學圖書印

皇和日大學圖書印

以下全て
白紙

